

病害虫防除技術情報第1号

平成18年 5月23日

三重県病害虫防除所

1 対象作物: **チャ**

2 対象病害虫: **クワシロカイガラムシ**

3 発生時期: **5月下旬～6月上旬(第1世代幼虫孵化期)**

4 発生状況

5月の巡回調査での雌成虫の寄生株率は31.4%で、平年(8.6%)、前年(12.1%)に比べ多い状況でした。

防除時期を判断するため、県内各産地から採集してきた雌成虫を室内飼育して、第1世代幼虫孵化状況を観察したところ、5月19日に孵化を確認しました。また、5月20日で産卵雌率97.1%、孵化卵塊率30.0%でした。

科学技術振興センター茶業研究室の観察では、5月22日に産卵雌率94.3%で、孵化を確認しました。

5月18日までの主産地(四日市、亀山、粥見)付近の気象データを使ってシミュレーションしてみると、孵化のピークは5月28日～31日頃となります。

これらのことから、孵化のピークは5月28日～6月3日に迎えると予想されるため、薬剤防除の適期と判断されます。

5 防除対策

(1) 幼虫孵化最盛期が防除適期になりますが、幼虫は日数の経過とともに、ロウ物質で体を覆い薬剤が虫体に到達しにくくなります。防除適期幅は約1週間と短いため、時期を誤らないように防除を行ってください。

(2) ただし、摘採等の関係で現在防除できない園があります。そのような園では今回の防除は見合わせ、次回(7月中下旬)に防除してください(次回も同様に防除時期をお知らせする予定です)。

(3) 地域により、孵化時期は異なるので、自園の孵化状況を確認して防除してください。

(4) 薬液が枝に充分かかるよう丁寧に散布してください。

(5) 防除薬剤は、茶のクワシロカイガラムシに登録のある薬剤を用いて行ってください。薬剤調合の前には、再度ラベルの内容の使用時期、使用回数、使用濃度を確認して、周囲の作付状況にも留意のうえ、散布を行ってください。

通称の農薬名称	農薬の種類名	希釈倍数	毒劇	魚毒性	使用時期	散布液量	本剤の使用回数	筆頭成分の総使用回数	第2成分の総使用回数
スプラサイド乳剤40	DMTP乳剤	1000～1500倍	劇		摘採14日前まで		1回	1回	
ダニトロンフロアブル	フェンピロキシメト水和剤	1000倍	普	注:魚毒	摘採14日前まで	1000リットル/10a	1回	1回	
アプロードエースフロアブル	フェンピロキシメト・ブプロフェジン水和剤	1000倍	普	注:魚毒	摘採14日前まで		1回	1回	2回以内

通称の農薬名称	農薬の種類名	希釈倍数	毒劇	魚毒性	使用時期	散布液量	本剤の使用回数	筆頭成分の総使用回数	第2成分の総使用回数
アプロードフロアブル	プロフェジン水和剤	1000倍	普		摘採14日前まで	1000リットル/10a	2回以内	2回以内	
アプロード水和剤	プロフェジン水和剤	1000倍	普		摘採14日前まで	-	2回以内	2回以内	
ホスクリン	イソキサチオン・メソミル水和剤	1000倍	劇		摘採21日前まで		1回	1回	2回以内
スミロディー乳剤	フェンプロパトリン・MEP乳剤	1000倍	劇	注:魚毒	摘採21日前まで		1回	1回	1回
ダズバン乳剤40	クロルピリホス乳剤	1000倍	劇	注:魚毒	摘採14日前まで		2回以内	2回以内	
カルホス水和剤	イソキサチオン水和剤	1000倍	劇		摘採21日前まで		1回	1回	
カルホス乳剤	イソキサチオン乳剤	1500倍	劇		摘採21日前まで		1回	1回	
ホスパール乳剤	イソキサチオン・DDVP乳剤	1000倍	劇		摘採21日前まで		1回	1回	3回以内

※ 農薬の適用内容は、平成18年5月20日現在

6 参考

クワシロカイガラムシ卵塊と孵化幼虫 (H18.5.20)

三重県病害虫防除所

県内主産地から5月8~12日に採集してきた雌成虫を室内で飼育。

5月20日現在、平均97.1%が産卵を終えている(左図)。

幼虫の孵化が始まっており、歩行幼虫が枝上で確認される(下図)。

